

第1回静岡市文化振興審議会 議事録

日時：令和5年7月18日（火）14:00～15:30

会場：静岡庁舎 9階 特別会議室

出席者：委員：別添名簿のとおり

文化振興課：望月課長、三浦補佐、福原主査、平松主任主事、
野末主査、木南主査

【議題】

- (1) 令和5年度 静岡市文化振興審議会スケジュールについて
- (2) 静岡市文化振興計画 後期実施計画 令和4年度事業実施評価について
- (3) 第2期静岡市文化振興計画 登載事業について
- (4) 静岡市民文化会館 再整備事業進捗報告について

【記録】

	内容	
14:00	開会 課長挨拶	三浦補佐 望月課長
14:02	委員挨拶 平野会長→遠藤委員から名簿順に→佐々木副会長	各委員
14:12	事務局紹介	事務局
14:15	会長挨拶 議事録署名人1名：遠藤委員 【議題1】 令和5年度 静岡市文化振興審議会スケジュールについて 資料説明 資料1 ・令和5年度は年4回の審議会を予定 ・審議案件は「静岡市文化振興計画 後期実施計画 令和4年度事業評価総括」が中心 ・その他報告事項として、必要な場合に随時、静岡市創造及び交流によりまちの活力を生み出す文化の振興に関する条例改正にかかる事項、静岡市民文化会館再整備進捗にかかる事項を案件として扱う 意見・質問等 ⇒意見・質問等なし ⇒承認 【議題2・3】 静岡市文化振興計画 後期実施計画 令和4年度事業実施評価について 第2期静岡市文化振興計画 登載事業について	平野会長 福原主査 各委員

資料説明 資料2 ・令和4年度事業評価（各課）について 期待を上回っていた：20 事業 期待どおりであった：122 事業 期待を下回っていた：29 事業 評価対象外（中止・廃止）：4 事業 計 175 事業 ・令和3年度と比較し、大型イベント（安倍川花火大会・清水みなと祭り等）が再開。本来のまちのにぎわいが戻りつつある ・静岡市歴史博物館のグランドオープンにより静岡市における歴史文化の普及・発展に期待が膨らんだ年となった ・評価の際のポイント 第1期静岡市文化振興計画における最終評価の年度となる 令和5年度評価からは第2期静岡市文化振興計画における登載事業評価となる ・第2期計画に繋げていくという視点を持って評価 ・資料4の様式を用いて評価 メール・FAX・郵送にて8/4（金）までに提出	福原主査
資料説明 資料3 ・第2期静岡市文化振興計画 令和5年度事業実施評価様式 第2期計画における登載事業案 令和4年度 第5回審議会にて承認された事業 第5回審議会承認時から変更した点が2点 ①再掲の表記を事業名のうしろから別出しして記載 （見やすさ、ソートのしやすさの観点から） ②実施内容と実績値を別々の欄で表記 （実績値を拾いやすくするため） ・様式についての意見・要望等あれば評価照会と併せて連絡	
意見・質問等 ・計画の第1期・第2期の位置づけがイマイチ分かっていないので、全体を通した位置づけを説明してほしい ・資料3が第2期の事業一覧で、手元にお配りしている冊子の中身となる。今回の評価では使用しない ・資料2は第1期計画における事業一覧となり、今回の評価対象事業となる ・資料3については、今後使用していく様式となるため、工夫した方がよい点などあれば、ご意見いただければ反映していくこと	吉川委員 福原主査 望月課長

も可能である ・やりながら整理していきたいと思う ・資料2をもとに令和4年度の評価をしていただく。資料4の意見照会は、「令和4年度 評価意見照会」ということでよい ・そのような理解で間違いない ・書きぶりについては、例年と変わらないので、委員の皆様にはご理解いただいているかと思う。寄せられた意見で重なっているものはひとつに統合していく、全体を見て不足しているものはここに足していくというような作業工程になっていく ・質問等はない。コロナの中でかなり頑張っていると思う その他意見 ⇒その他意見なし ⇒8/4（金）までに作業を依頼 【議題4】 静岡市民文化会館 再整備事業進捗報告について ●資料説明 資料5 ・基本構想イメージ図を説明 大事にしていくこと：「劇場が日常になる、日常が劇場になる」という基本理念の部分 劇場が日常になる：いつも楽しいことがあり、特別な時だけではなく、日常的に通いたくなる場にする、つまり、特定の目的、鑑賞事業という目的を持たなくても劇場が常に日常の近いところにある、皆さんの身近にあるというところを理念としている。 日常が劇場になる：日常的に文化芸術に触れることによって、文化芸術との出会いによって、生きがいをもって楽しく過ごすひとが増え、わくわくドキドキがあふれるまちにしたい。 その拠点として、今回の再整備に取り組むんだという基本理念を掲げている。 ・再整備方針（創造的改修） どういう再整備をしたいか、ワークショップ・アンケート・審議会での意見を聴取した上で、市民の意見をまとめて決めた方針になっている 「安全・安心改修+ホール機能向上・創造支援機能付加・使いやすく愛着の持てる施設」が改修の方針となる。 ・老朽化が激しくなっている大ホール・中ホール・ロビー棟、3つの棟を含めて快適に過ごせる場所にする。	吉川委員 平野会長 事務局 平野会長 佐々木副会長 野末主査
--	--

- ・安心・安全に過ごすために再整備事業として着手している
- ・広場・駐車場・付帯施設の整備については、日常的に立ち寄りやすい設えに配慮し、日常的に鑑賞事業や催事がなくても立ち寄っていただける施設にしていきたい

●静岡市民文化会館再整備事業概要書を説明

- ・立地を活かし、駿府城公園の事業と連携しにぎわいの集まる場所にしていきたい

- ・用途地域、埋蔵文化財包蔵地、風致地区等様々な制限がある地域である

- ・指定管理者は公益財団法人 静岡市文化振興財団共同事業体
- ・稼働率

平成 28 年度は修繕のため大ホールが数か月休館していたが、平均して見ても 80%を超える高い稼働率を誇る施設である

- ・開館から 44 年経過、耐震性能や東日本大震災を機に建築基準法が変わり、特定天井に対する改修が必要とされているが未対応となっている。

- ・バリアフリー、オンライン事業への対応が課題

●新たな市民文化会館が果たすべき役割

- ①様々な文化芸術活動の継承・創造・発信の場となる
- ②文化芸術や人との出会いによる「わくわくドキドキ」する場となる
- ③誰もが行きやすく、暮らしやすくなるプログラムや場を提供する
- ④文化芸術を通じて、まちに「賑わい」をもたらす中核となる
- ⑤機能・サービスを向上し、「選ばれる施設」となる

●創造的改修の全体像

図面上の赤字★印を特に力を入れてやっていきたい

ロビー棟においては

- ・創造活動のための空間づくり
- ・気軽に滞在できる空間づくり など

人口台地においては

- ・開放的かつ賑わいを感じられる空間づくり
- ・駐車場の再整備 など

日常的に利用していただくということをメインに考えている

- ・トイレの数、バリアフリーなども改善し、使い勝手を向上させていく

ここに至るまでの経緯

令和3年度：基本構想・基本計画 それ以前の議論として 平成30年度：ホールとアリーナの建設 ⇒アリーナは難しい 建替え？新築？改修？どういった再整備にするか こういった経緯を踏まえながら令和元年度以降議論し、まとめた ものが、現在の形になっている ・中ホール・大ホール 興行、質の高い芸術文化活動を市民に見ていただくために必要な 機器の更新・設備の更新を行っていく ・ロビー棟 会議室は多い、音楽系・演劇系の練習が出来るスペースがあまり 多くない。会議室を改変し、より文化活動が出来るようなス ペースにしていくことが大きなポイントになっていく ・広場 人がゆったりできるようなスペース ・トイレを増設 ・駐車場から雨に濡れずにホールに入れるルートの設定 ●事業スケジュールについて（令和3年度時点） 基本設計・PFIアドバイザー業務⇒取組中 運営を含め民間事業者をお願いをする方式を採用している （PFI） 令和6年度 事業者決定・実施設計 令和7～8年度 休館2年間 なるべく休館期間が皆さんに影響のないようにやっていきたい 4ページ図面の中に「修景広場」という言葉が出てくるが、専門 用語なので共有させてもらってもよいか 噴水があったりくつろぐ場というイメージ。市としては北街道か らの導線を意識している。（催事があるときは公共交通機関を利用 する来場者は北街道からの導線が圧倒的に多い） 現状植え込みがあって視界が見えにくくなっている部分を、広場 を見れるように視認性をよくして隔たりのない形で施設を改修 していきたいと考えている 会議の冒頭「暑いですね」という話があったが、おそらく今後こ の天候は日常になるんだろうと思うと、色々な使い方を考えるの	平野会長 野末主査 吉川委員
---	-------------------------------------

	はよいが、これからは天候や防災のことを考えたり、これまでの公共施設の在り様からもう少し先のことまで考えているよという形があるといいなと思った イメージ図は2年前のものということもあり、現在はもう少しよいものになっている。特に広場の使い方に関しては、昨今の気候変動により今までとは全く違う気象条件になっているということは想定できる。設えとしては特に何もないかもしれないが、あずまやなど備品対応するなどで検討している 付帯施設は、規模等々はこれから最終的に決めていくことになるが、こういったところでも雨、風、暑さ、寒さを凌げて皆さんが交流できるようなそのような場所にしていきたいと考えている 新しい文化振興計画の中では、サードプレイスになるような場所をここでも実現していくということが計画の中で活きているのではないかなと理解している 駿府城公園、お堀の中にあるという立地を活かしながら、中心地になるようなソフト事業に繋げてほしい。劇場はイベントをやるときには人が来るが、そうじゃないときに人が出入りしやすいかということが大事だと思う。先ほどのサードプレイスもそういった意味であると思うので、年間を通してどういうソフトをそこで展開していけるかというのをぜひ両輪で進めていただければと思う ソフトの部分といった限りでは、どのようなことを考えているのか。現状でよいので教えてほしい 私どもの方で、サードプレイスや日常使いということを行っているが、実際ここで何もやらないと人が寄り付かないというのは明白になっている。ここで何が出来るか市の施策として考えなければならぬというのは承知している。ソフト事業については、まだ形になっているものはないが、市としては今後、地元の方や地元の文化団体も含めてここで色々なことをやっていくというのが大事かなと考えている。静岡市文化振興財団にもご協力いただきながら、地元の方を巻き込んでやっていけたらよいかなと考えている	野末主査 平野会長 成島委員 平野会長 野末主査
--	--	---

改修に繋げていくための広場の使い方をイベントという形でやっていた（『新文化島』2022.2.26-27）。これからの文化会館はこういう風になるんだというのを上手イベントの場を使って説明していくような機会になればいいなと考えている	平野会長
若い人たちの導線を考えていたが、意外とスターバックスには皆行く、みたいなことがある。文化的なことというよりまずは人を集めるところの導線がどう生きてくるのかも重要。グランシップの前にも芝生広場があるが、どういう使われ方をしているのか、頻繁にイベントとして開放しているのかどうかという点と、集客出来ているのかという点を検討して、活かしてもいいのかなとも思った。グランシップの場合は駅前で、そこに集客をしようと頑張ってる東静岡で色々やっているが、そういったところにヒントがあるのかなと思う。静岡に遊びに来て、導線を考えたときにけやき通りからセノバに行って、セノバから駿府城公園に流れていくかという話もあると思う。流れて行ったときに歴史博物館を通過して駿府城公園を楽しむかというのもあるので、その導線から更に向こうに行く何かのきっかけというところで考えるともう一つ何か工夫が必要かなと思う。人が集まる何かにするなら誘致も考えてもよいのかなと思う。若者は敏感に反応すると思うので、世代的に少し低い層の集客というのも視野に入れるといいかなと思う。すぐ SNS で繋がるので、面白いことがあると瞬時に広がるということも特徴だし、面白くないと瞬時に離れていくということも特徴。その辺でやりようがあれば、企業を使うのがいいのか、地元こだわりの方がいいのかは分からないが、集客を考えて継続させるという意味では、色々と実験的にやってみたらいいのかなと思う	遠藤委員
ソフト事業で集客を図っていくと説明したが、ソフト事業というところでどうしても単発になって継続できないというところもある。それも踏まえて、付帯施設のところにカフェのような集客できるような飲食機能を設けたいという考えもあったが、経営が絡んでくると出店者の方も、人の流れなど今のところと言うとあまりないので、そこら辺を見極めているので、難しいというのが検討した結果でもある。ただ、ここで快適にくつろぐためには飲食機能は必要になってくる。そこをどういった形で補填していくのか、建物を作って飲食を営業させるのではなくて、もっと別のやり方、例えばキッチンカーのようなものを持ってくるなど、そういった	野末主査

ことを運営の中で考えていければと思っている。それに加えてソフト事業と、大ホール・中ホールの催事、それらを複合して絡めてやっていかないと日常的に人が滞留するような装置というのは、少し時間がかかるのかなと思っている

人の流れを変えることになるので、新しく運営される方と市と近隣の方々と連携して、まずは地元の方に愛着を持ってもらって日常的に使ってもらうというのが継続しやすいかなと考えている。皆さんに協力をしてもらいながらにぎわいを作っていけたらと考えている

七間町の静活の跡に子どもの広場が出来て、子どもが遊んでいる様子をよく見かける。若者よりももっと若い、幼稚園児から赤ちゃんを連れたお母さんたちが集まっていてよく使われている。

今、学校の校庭が使いにくくなっているとか、子どもたちの居場所はどうするのかとなっている、そういうことも含めて小さい子どもたちが中々行く場所がないというところで、たまたま七間町の広場がにぎわっている。そういう風な小さい子どもが行く場がないとか、高齢者施設に入っている方々が皆で散歩に行く先がないとか社会的背景を含めて場の活用を考えていってもよいのではないかと思う

今まで市民文化会館を使ってもらっている方というのが、ホールの中に用事がある方というのがあるので、外に出ても快適に使用できる、例えば幼稚園の発表会のあとにお母さんたちが交流できるスペースとして提供したり、色々な方との交流が生まれる、そして、そこでたまたまアートのイベントをやっていれば、アートに興味を持ってくれる人が増えることもある。そういった連続的な反応や連鎖的なものを意識してやっていけたらよいかなと考えている。設えも含めソフト事業の絡みも大切なのかなと思っている

今までの文化会館もそうであったが、文化会館を点で考えると難しいことも多いと思う。導線という説明もあったが、せっかく新しくなるので、改めて商店街やまちの中から、駿府城公園から、あるいは歴史博物館からの導線の可能性を生かすために、色々な人たちと丁寧に対話を重ねながら、これをチャンスとしてまち全体としてこの場がどうあるべきなのか共有していくことが大事だ。静岡方式の静岡市ならではのやり方でここに反映していくよ

吉川委員

野末主査

平野会長

	うな相乗効果が生まれることを期待したい。そういったことを議論していく場、市民と話し合う場で指定管理をしてくれる運営団体とうまく話し合いをしながら、それが施設そのものの構造的にも生きていくようなそんなものを目指していけたらいいなと思う 順調に進めばよいと思っている	佐々木副会長
14:50	事務連絡 閉会	三浦補佐

署名（会長）

平野 雅彦

署名（委員）

遠藤 次朗

